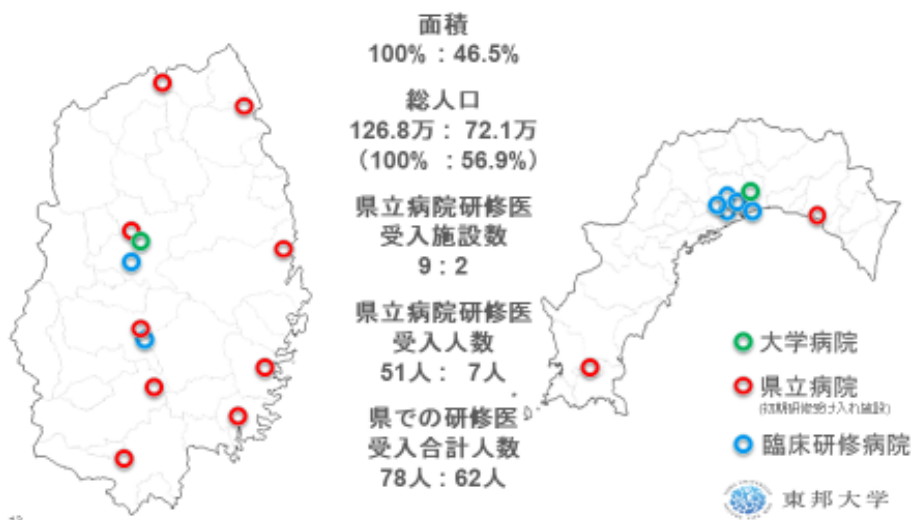


研修報告書 No.11

所 属： 東邦大学医療センター大森病院
氏 名： 佐野 隆英
研修先： 田野病院、馬路診療所

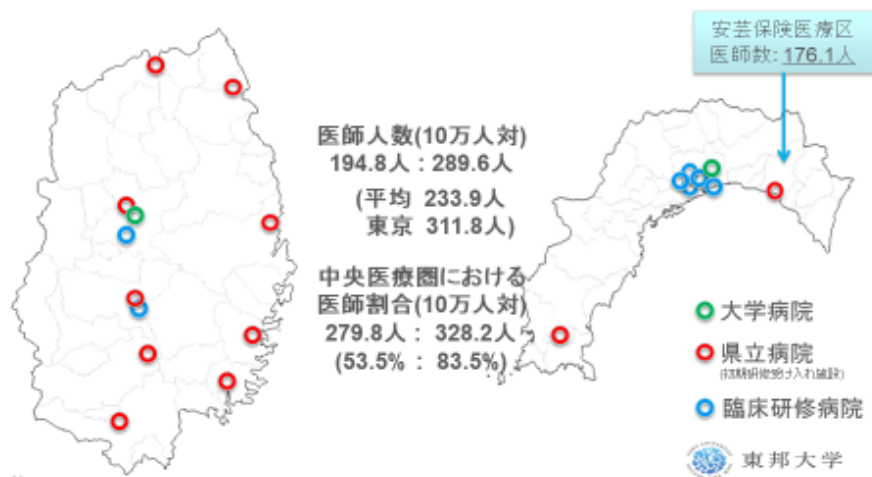
私は 2019 年 1 月 4 日から約 1 ヶ月の間、安芸医療圏である田野病院と馬路村の診療所、その他地域の診療所や介護施設などで研修させていただいた。私は初期研修こそ東京の大学病院で行っているが、それまでの 6 年間は岩手医科大学の医学生であった。そのため高知県と同様に医師不足が問題となっている岩手県で 6 年間、実習などの際に医療現場を見てきた経験もあり、多少なりとも地域医療の実情を知っているつもりであった。しかし、田野病院で研修する中で先生方や患者さんの話を聞き、東部地域が自分のイメージよりもより深刻な医師不足に悩まされていることを知った。

岩手医大では、初期研修を県立病院もしくは大学病院で行い、3 年目で大学病院の医局に戻り 4 年目でまた県立病院などへ出向するという流れが一般的であり、そのシステムのため、県立病院ではどの病院にも若手から指導医レベルまでの医師が十分数とはいえないものの揃っていたように覚えている。しかし私が研修をさせていただいた田野病院では医師数はもとより最も若い常勤医ですら 40 歳代であり、それにも関わらず田野町以東の室戸市までの救急患者受け入れの最前線病院といった、田野病院の諸先生方の身を削る努力で地域の医療を支えているのを目の当たりにした。



上図は岩手県と高知県を比較した県面積、人口、平成 30 年度の初期研修医マッチング結果である。岩手県では四国 4 県に匹敵する広大な県土をカバーするため広範囲に県立病院が点在しており、9 カ所の臨床研修病院指定を受けている県立病院も内陸から沿岸まで、南

北に点在している。一方で高知県では県の東西に1カ所ずつ県立病院があるが、それ以外の研修病院がすべて高知市を含む中央医療圏に集中していることがわかる。



また、上図では県内の医師の分布を表したが、高知県の単位人口当たりの医師数は人口10万人当たり289.6人と全国平均のおよそ1.25倍である一方で、中央医療圏に限ると328.2人となり、これは東京都の単位人口当たりの医師数を超える密度である。また、高知県内にいる医師の80%以上が中央医療圏に集中しているデータもあり、高知県においては医師の絶対数が不足しているのではなく、医師の分布が異常なまでに偏っているといえるのではないだろうか。私が田野病院で感じた若手の医師不足は臨床研修病院のようにある程度大きな病院が中央医療圏以外に少ないことが原因にあると考えられ、既存のあき総合病院や幡多けんみん病院の研修医を増員し、地域医療に近いこれらの病院へ大学医局などから若い医師をさらに派遣することが現状の解決の一助になるのではないだろうか。

このように医師不足で忙しい中、田野病院や地域の診療所の先生方、様々な医療スタッフの方々はとても親切に指導して下さった。特に患者さんの自宅に直接訪問する訪問診療や看護・ヘルパーなどでは様々な職種の方々からご指導をいただく機会があり、大学病院では知ることのできない退院した後の患者さんの生活を知ることができた。また、家族の介護への積極性、家の構造などによってヘルパーさんの業務内容やリハビリの目標が異なり、ケアマネージャーさんがサービス利用者それぞれに個別のオーダーメイドのサービスを組み立てていることも知り衝撃を受けた。

今回の地域医療研修で地方の医師不足について研修で目の当たりにしたり、調べたりした結果、一言に地域といえども地域それぞれの特徴があり単純に県内の医師数を増やしても解決にはならないことが分かった。また先述の通り、地域医療を支えるためには医療従事者だけではなく、自宅での生活を支えるスタッフの方々の支えも重要であることを学んだ。これから来られる研修医の先生方にも、地域医療が崩壊する危機感とそれを支える先生方や医療スタッフなどスタッフの方々の努力を知っていただける研修を田野病院では経験することができると思う。